

彙報 (昭和53年1月〜同12月)

●人事異動

四月一日 松下隆章 館長を退職
四月二日 林屋辰三郎 館長に就任
七月十六日 万波教 次長を退職
八月一日 三木彰 次長に就任

●特別展覧会 (○印は共催)

○特別展覧会・安宅コレクション 東洋陶磁

会期 一月五日(木)〜二月十九日(日)
会場 京都国立博物館・旧陳列館
主催 京都国立博物館・日本経済新聞社

*中国と高麗・李朝の陶磁器の名品三〇〇余点を公開。

○特別展覧会・フリードリッヒとその周辺——ドイツ・ロマン主義絵画の巨匠——
会期 四月八日(土)〜五月二十八日(日)

会場 京都国立博物館・旧陳列館
主催 京都国立博物館・日本経済新聞社・ドレスデン国立美術館

*ガスパール・ダヴィッド・フリードリッヒ(一七七四〜一八四〇)は
ドイツ・ロマン主義絵画の巨匠。ドレスデン国立美術館所蔵品を中心
に、ドイツ民主共和国、ソヴェト社会主義共和国連邦、チェコスロ
ヴァキア社会主義共和国などの二十二の美術館から、ロマン主義絵画
の二十五人の作家の油彩・素描・版画など、あわせて一二七点の作品
を集めて公開。

○特別展覧会・ポストン美術館展——名作が語る人間像——

会期 六月二十四日(土)〜八月十三日(日)
会場 京都国立博物館・旧陳列館
主催 京都国立博物館・ポストン美術館・読売テレビ放送

*ポストン美術館所蔵品の中から人物を表わした彫刻・絵画・工芸八十
一点を陳列。西洋・アメリカ六十三点、東洋十八点、時代や民族を超
えたヒューマニズムに焦点を当てる。なお、昭和四十七年には「ポス
トン美術館東洋美術名品展」を開いた。

特別展覧会・日本の意匠——工芸にみる古典文学の世界——

会期 十月七日(土)〜十一月十二日(日)
会場 京都国立博物館・旧陳列館
主催 京都国立博物館

*日本の工芸意匠のうち、和歌・物語などの古典文学にテーマをとった
工芸デザインに焦点をあて、金工・漆工・染織品などを陳列した。

●特別陳列 (▼は年間の恒例的な陳列)

宸翰 一月五日(金)〜一月二十九日(日) 新館2階中央室 木下政雄担当

▼京の人形 二月十六日(木)〜三月二十二日(火) 新館13号室 切畑健担当

蕪村 四月五日(水)〜五月七日(日) 新館11・12号室 宮島新一担当

手鑑と古筆切 (特集陳列) 四月五日(水)〜五月七日(日) 新館13号室 木
下政雄担当

*手鑑「碧玉」二帖および国宝「万葉集卷第九残卷」(藍紙本)を初公開。

越前・八坂神社の仏像 二月七日(火)〜七月三十日(日) 新館7号室 井上
正担当

*福井八坂神社拜殿の床下から発見された半丈六仏四軀と光背一基の修理完
成を記念して陳列。

▼新収品展 七月五日(水)〜八月六日(日) 新館2階15・16・17号室

*昭和52年度の文化庁管理換、寄贈、購入などによる新しい収蔵品を展示。

緑釉と灰釉 七月十二日(水)〜八月十三日(日) 八賀晋・難波田徹担当

*愛知・猿投山古窯跡、奈良平城京三坊大路出土品を中心に、畿内各寺院跡
などの出土品を陳列した。

涅槃図の名作 十一月八日(水)〜十二月三日(日) 新館2階 中野玄三担当

*金剛峯寺仏涅槃図の修理完成を記念して、涅槃図の名作二十一点を陳列。

最近の発掘調査——飛鳥山田寺—— 十月六日(金)〜十一月十二日(日) 八
賀晋・難波田徹担当

*蘇我倉山田石川麻呂によって建立された(六四一〜六七八)山田寺の最近

賀晋・難波田徹担当

の出土品の中から埴仏、瓦、風招、鴟尾などを陳列。

刀装 十月十八日(水)～二十四日(日) 新館18号室 稲田和彦担当

▼鉄斎の山水画 十二月十二日(火)～五十四年一月二十一日(日) 新館14号室
金沢弘担当。

● 出版刊行

○『京都国立博物館所蔵 名物裂(上)』 京都国立博物館 昭和53年3月 切畑健
担当

*昭和四十・四十一年度に購入した加賀前田家伝来の名物裂類一九五種を組織図を挿んで詳細に紹介したもの。B4 本文図版二一〇頁(原色図版七
七・単色図版九八図)／頒価二万五千円

○『日本の肖像』 京都国立博物館 昭和53年3月 中野玄三担当

*昭和五十一年秋開催の特別展覧会「日本の肖像」の図録。作品解説のほか、井上正・中野玄三・金沢弘の各論文を掲載。B4 本文図版一五四頁(図版原色四〇・単色八四)／頒価三万八千円

○研究発表『肖像美術の諸問題——高僧像を中心に——』 仏教美術研究上野記念財団助成研究会報告書第5冊 昭和五十三年三月 A4 本文図版四十八頁(図版単色八)

*特別展覧会「日本の肖像」開催を期して昭和五十一年十月二十五日におこなわれた研究シンポジウムの要約。末尾に「中国肖像年表」、「日本高僧像作例表」を附す。

○『特別展覧会、日本の意匠——工芸にみる古典文学の世界——』 目録 京都国立博物館 昭和五十三年十月。B5版 本文図版一八〇頁(図版原色九・単色一七七)

○『涅槃図の名作』特別陳列図録 財団法人清風会 昭和53年11月 中野玄三担当

*作品解説のほか、概説「日本における涅槃図の展開」を掲載。A4本文図版三三頁(図版原色一・単色三二) 収載涅槃図三六図。／頒価八〇〇円

● シンポジウム

研究発表と座談会「誕生と涅槃の美術」

主催 仏教美術研究上野記念財団助成研究会(代表者 林屋辰三郎)

期日 十一月十三日(月)

会場 京都国立博物館講堂

参加者 約百名

研究発表

『仏伝における誕生と涅槃』 佐和隆研

『インドにおける誕生と涅槃の作例』 肥塚隆

『中央アジアにおける誕生と涅槃の作例』 百橋明穂

『日本の誕生仏』 田中義恭

『日本の涅槃図』 中野玄三

座談会(司会 井上正)

● 国内における調査研究

京都南部旧巨椋池および淀周辺の仏像調査 九月～十二月 担当 井上正

*久御山町・宇治西部・淀・伏見南部などに散在する平安・鎌倉の仏像資料の収集。新出資料約三十点。

● 海外における調査研究

八賀晋 三月二十二日～五月二十一日(行先) 大韓民国

*韓国における陶質土器の初源、及び日本の須恵器の源流の問題について、主として伽耶式土器を中心に実測し、土器編年の大系を得た。

難波田徹 十月十日～十二月九日(行先) 大韓民国

*韓国における瓦埴資料のうち、主として新羅の瓦埴(皇龍寺・四天王寺・高仙寺・仏国寺)について調査し、三国新羅から統一新羅時代にかけての瓦埴の編年の研究を行なう。

河原正彦 十一月十九日～五十四年三月十一日(行先) ドイツ連邦共和国

*「西独巡回日本名陶展」に随行、その間当地所蔵の日本・中国のヨーロッパ向け輸出陶磁の調査を行う。